

第3部 職業訓練の実践を踏まえた今後の課題

1 本実践報告書について

能開校における精神障害者に対する職業訓練を効果的に進めるにあたっては、技能指導に併せて、職業準備性の向上や就職活動等に係る支援（適応支援）を行うことが重要である。

職リハセンターは、中央障害者職業能力開発校と広域障害者職業センターを併設しているという特徴をいかし、平成14年度より精神障害者に対する職業訓練に取り組んでいる。職リハセンターでは中央障害者職業能力開発校には職業訓練指導員（技能指導担当者）が配置され、広域障害者職業センターには障害者職業カウンセラー（適応支援担当者）が配置されており、それぞれの専門性に立脚した複数の支援者によって構成される、チームによる総合的指導を実施している。

また、精神障害者に対する効果的な職業訓練は、外部関係機関との連携も重要であり、本報告ではその取り組みについても取り上げているが、さらに具体的な検証と整理が必要と考えている。

訓練生の障害に応じた柔軟な技能指導、適応支援の方法等引き続き検討しなければならない課題も多く残されているが、本報告が、能開校における精神障害者の受入れ促進の一助となれば幸いである。

2 入校判断における課題

入校判断は、訓練期間中安定して通所・受講ができること、訓練によって技能習得とそれを基とした就職が見込めることの2点についての判断が重要となる。職リハセンターでは、入校判断において、学科試験や職業適性検査とともに、事前の提出書類に基づく面接により本人の現状の把握をする、数日以上に渡る職業評価日を設定する、作業耐性を確認するために単調な作業課題を実施する、日常生活の状況をよく知る関係機関担当者等から情報収集するなどにより、総合的に判断して入校の可否を決定している。

しかし、上記の判断結果によって入校したものの、入校2～3ヶ月後に精神的に不安定となり、訓練の受講継続を図ることが難しかった訓練生もいる。精神障害は「見えにくい障害」といわれているように、障害特性を短期間で把握するには難しい面もある。

このような訓練生に対し、限られた期間で適切な入校判断ができるよう職業評価結果と訓練の結果の照合及び要因分析をし、入校後の訓練成果の予測要因を把握できるような入校判断システムを確立することが今後の課題である。

3 技能指導における課題

(1) 個別訓練カリキュラムの策定について

精神障害者に対する職業訓練においては、訓練生の持っている技能・知識、障害特性等を踏まえた個別指導を基本とした個別の訓練カリキュラムを立てることが必要である。

特に、入校直後等の慣れない訓練生活に対する不安や緊張等からの体調の崩れを起こさないような配慮が重要である。そのために、導入訓練期は、体調に配慮した訓練時間を設定したり、自らの体調や気分の変化を確認できるような緩やかな訓練スケジュールを用意し、少しずつ技能訓練へとシフトできるようにする配慮をしている。

また、本訓練期においても、訓練生の体調、障害の特性、訓練の受講状況、就職活動の状況等、必要に応じて訓練内容、訓練日数・時間、訓練の実施場所等の変更をできるように柔軟な対応をしている。

こうした対応に対しては、訓練生のアンケート等から、ある程度の満足度が得られている。しかし、訓練生個々の技能習得能力に応じた訓練目標の設定という観点からは、試行錯誤の末に個別訓練カリキュラムを設定している状況であり、精神障害の障害特性を考慮したパターン化された訓練カリキュラムの設定や訓練カリキュラム改善、個々の事情に応じた柔軟な訓練カリキュラム設定といった構造化された訓練カリキュラムの設定は十分とはいえない。今後は、さらに実践を積み重ね、それらの具体的な手法を体系化していくことが課題である。

(2) 指導体制について

個別指導においては、無理なく段階的に進めるような訓練課題及び要点を簡潔明瞭に説明した教材を整備し、課題遂行上の戸惑いや混乱を最小限に抑える工夫をしているが、要所には技能指導担当者の直接介入による適切なアドバイスが必要となる。しかし、複数の訓練生に対して巡回指導を行っていることから、一人

の訓練生に係る個別指導には時間的な制約が生じる。個別指導を基本とした自学自習において、訓練生が孤立しないように常に目が届くフロアで実施し、かつ本人への巡回指導の回数を多くする等、訓練の進捗状況を見守り、適宜対応できるような指導体制の構築が課題である。

4 連携（内部、外部）における課題

（1）チーム指導について（内部連携）

技能指導担当者と適応支援担当者は、日常的なコミュニケーションと定期的（月1回）な個別ケース会議によって連携し、共通認識や情報を共有化してチーム指導を行っている。しかし、ともすればコミュニケーションが一方向になったり、個別ケース会議への参加が不定期になったりして、支援者間の考えの違いや認識のずれによって訓練生への対応が異なり、結果的に訓練生が訓練を安定・継続して受講できないこともあった。

チーム指導は共通認識と情報の共有化を図ることによって、それぞれの専門性が発揮できるようになり、多様な支援を必要とする精神障害者の職業訓練には有効な支援方法であると考えられることから、いかにして支援者間の共通認識やそれぞれの専門性の質の維持・向上を図るかが今後の課題である。

（2）関係機関等との連携について（外部連携）

訓練生に係る適応支援の実態としては、本訓練中期から訓練継続の支援や就職活動が増え、本訓練後期になると就職活動を中心に、修了後を見据えた生活支援のフォローも行っている。訓練修了後1～2ヶ月は、未就職者の就職活動支援や職場適応支援、生活支援のフォローを頻繁に行っている。これらの支援は職リハセンター単独よりも関係機関との連携によって実施している。

関係機関との連携を支援内容で整理すると、「訓練受講継続の支援」「修了後の支援」においては、主に主治医、家族、関係する福祉施設（作業所、障害者支援施設等）、生活支援機関等と連携し、「就職活動の支援」においては、主に企業、ハローワーク、地域職業センター等と連携している。

職リハセンターにおいては、連絡会議や訓練生に関する個別のケース会議等を通して、各目的に応じた関係機関と支援の役割分担や共通理解を図っている。訓

練時間中に把握できない情報を得る情報の補完と、提供できない支援サービスのサポートを依頼するサービスの補完という関係機関等との連携の効果をさらに上げていくには、支援内容別に次のような課題がある。

訓練受講継続の支援においては、訓練、就職活動の方針を一致させ、役割分担を行うために主治医（医療機関）に職リハセンターの取り組み状況をどのような方法で理解してもらうかが課題である。

就労支援については、企業に対する精神障害の理解の促進を図り、本人の負担に配慮して職場定着を図るために、就労支援機関によるジョブコーチ支援を実施することがあるが、訓練生によっては人見知り等によりジョブコーチとの信頼関係ができるのにかなりの時間を要する場合がある。そのため、フォローアップとの関わり等で無理のない支援の移行ができるような関係機関との関わり方について検討する必要がある。

訓練修了後の生活支援については、適当な連携先が地理的条件等から見いだせない場合において、地域的な連携体制のあり方が今後の課題として残されている。

5 医療情報助言者を交えた個別ケース会議のまとめから

医療情報助言者、技能指導担当者、適応支援担当者等による個別ケース会議を踏まえたまとめから、以下のような課題が見いだされた。

就職に関する情報収集の仕方や、就職活動の実施方法については提案や意見も出ており、更なる検討が必要である。特に、就職を現実認識させるための職場実習の実施については、できる限り早期に実現できるよう検討すべきである。

適応支援は非常に有効であることを再確認し、支援者と訓練生の関係作りにおいては密接な関係を構築でき、スムーズな支援ができた。しかし、その反面、密接になったがゆえに、支援者との関係作りと訓練生同士の関係作りのバランスをいかにとっていくかという課題も残され、ホームルームや社会生活支援などのグループワークの内容についてさらに検討する必要がある。

家族の障害理解の度合いが本人に与える影響は大きいため、家族の障害理解促進に向けての家族支援のあり方について、医療機関との連携も含めたさらなる検討が必要である。

技能指導担当者と適応支援担当者に、第三者（医療情報助言者）を交えた振り

返りによって、良かった点やより良くするための改善点が明らかになった。訓練生にとってよりよい支援となるよう、このような振り返りを継続して行い、改善していくことが必要である。

<参考文献>

障害者職業総合センター：「精神障害者の職業訓練指導方法に関する研究－技能訓練と職業生活支援－」調査研究報告書 No. 70（2006年3月）

障害者職業総合センター、国立職業リハビリテーションセンター：「精神障害者に対する効果的な職業訓練を実施するために～指導・支援者のためのQ&A」
（2006年3月）

第4部 資料編

資料1 「入所申請書」

資料2 「健康診断書」

資料3 「社会生活等状況確認票」

資料4 「生活日誌」

資料5 「医療情報助言者を交えた個別ケース会議 17年度のまとめ」

入 所 申 請 書

平成 年 月 日

国立職業リハビリテーションセンター所長 殿

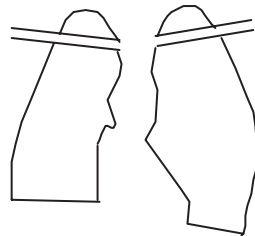
私は、このたび、貴センターに入所を申請します。

フリガナ			
氏 名			男 女
生年月日	昭和・平成	年	月 日生 (歳)
現住所	〒 電話 () -		
連絡先	〒 電話 () -		
職業訓練 受講歴	a. 有 (職業能力開発校名 訓練科名 受講期間 年 月 ~ 年 月)		b. 無
通所手段	a. 自家用車 b. 公共交通機関 c. その他 ()		
入所を希望 する理由			
就職について の考え方	希望する職種	①	②
希望する 職業訓練	(第2希望があればお書きください。 科 科)		コース コース
その他の 留意事項	当センターのサービス実施上 必要な医学的留意事項等		

※太線で囲んだ項目をご記入ください。

公共職業安定所記入欄	雇用保険受給期間	年	月	~	年	月
意見・要望 (今後の見通し、特記事項等)						
公共職業安定所 担当名						

健 康 診 断 書

氏名	男 女		生年月日	昭和 平成	年	月	日生(歳)	
障害名 (診断名)								
身長	cm	体重	kg	握力	右	kg	左	kg
血圧	最高	mmHg	最低	mmHg	尿検査	蛋白:	糖:	
視力	右	裸眼	矯正	視野	眼疾	聴力	正常	特記事項有り (下記記入)
	左	裸眼	矯正	色覚			右	dB
補装具等	使用している場合				X線所見 異常(無・有)			
	<種類> 義足 義手 杖(形状:) 車いす(手動 電動) 下肢装具(長 短 その他:) 補聴器(右 左 両方) 白杖 その他()				平成 年 月 日撮影  最近(3カ月以内)の胸部X線(直接又は間接)写真による。			
現在、医療機関にかかっているまたは服薬中の方は以下内容もご記入ください。								
常用薬	1. 抗てんかん剤			5. 眠剤			てんかん	※有りの場合
	2. 精神安定剤			6. その他()				無
	3. 糖尿病治療薬						②発作の頻度 (回/年)	
	4. 降圧剤						③直近の発作 (年 月 日)	
その他、当センター入所後、通院加療を必要とする疾患、職業訓練に配慮を要する疾患等								
医療歴	病名	期間		病院・施設名		内容		
		年 月 ~ 年 月						
		年 月 ~ 年 月						
		年 月 ~ 年 月						

上記の通り診断する。

平成 年 月 日

医療機関名

所在地

医師名

(電話

印

社会生活等状況確認票

平成 年 月 日 記入
対象者氏名 _____

1 現在までに利用した医療・保健・福祉・就労サービス

(1) 医療サービス
これまでの受療歴

①初めて精神科にかかった時期:	歳 (年 月頃)
②延べ入院回数:	回 ③最後の入院時期・期間: 年 月～ 年 月 (カ月間)
④医療機関で受けた内容: 受診 ・ 投薬 ・ 心理カウンセリング ・ デイケア ・ ナイトケア ・ その他 ()	

(2) 保健サービス

利用した機関(精神保健福祉センター・保健所等)とそのサービスの内容及び利用時期・期間

利用機関(担当者)	サービス内容(名称、具体的内容及び頻度)	利用時期・期間
		年 月～ 年 月 (カ月間)

(3) 福祉サービス及び就労支援サービス

利用した機関・施設(共同作業所・生活支援センター等及び障害者職業センター・就労支援センター等)とそのサービスの内容及び利用時期・期間

利用機関(担当者)	サービス内容(名称、具体的内容及び頻度)	利用時期・期間
		年 月～ 年 月 (カ月間)
		年 月～ 年 月 (カ月間)
		年 月～ 年 月 (カ月間)

2 現況

(1) 最近の状況

a. 最近1ヶ月の状況について(あてはまるものすべてに○)

- ①正社員として勤務 ②パート・アルバイトとして勤務 ③家事・家業に従事 ④家事・家業の手伝い
⑤授産施設・小規模作業所に通所(頻度:) ⑥デイケアに通う(頻度:)
⑦患者の集まりに通う ⑧生活支援センターを利用 ⑨就労支援センターを利用 ⑩障害者職業センターを利用
⑪その他()

(2) 最近の病状及び生活上の障害

a. 最近の病状は安定していますか。

- ①安定している ②概ね安定している ③時に不安定になる時もあるが周囲の支援を受けることで安定する
④やや不安定な時が目立つ ⑤よくわからないまたは確認が取れない

b. 生活上の障害や特徴として留意すべきものがありますか。

- ①不眠等睡眠状況 ②受療の中断 ③怠業 ④疲労感 ⑤感情コントロール ⑥妄想 ⑦うつ症状
⑧不定愁訴 ⑨薬への依存 ⑩生活リズムの崩れやすさ ⑪人間関係(協調性) ⑫その他()

最近の病状及び生活上の障害についての特記事項

(3) 地域における支援機関・施設

a. 職業訓練を受けるに当たって又は職業訓練終了後に、貴施設及び貴施設以外に社会生活面での支援をお願いできる機関・施設はありますか。

- ①医療機関 ②精神保健福祉センター ③保健所 ④生活支援センター ⑤グループホーム
⑥授産施設・小規模作業所 ⑦デイケア ⑧就労支援センター ⑨その他()

b. 機関・施設の具体的な名称及びサービス内容をお教えてください。

名 称	サ ー ビ ス 内 容

お忙しい中ご協力をいただき、誠にありがとうございました。最後に貴職の所属・お名前等をお教えてください。

お名前	所属及び職名
所属先所在地及び電話番号	

記入に当たってのお問合せは、国立職業リハビリテーションセンター職業評価課(04-2995-1201)までお願いいたします。
(利用したサービスが何ヶ所もある場合は、コピーをとって作成して下さい。)

生 活 日 誌

日付			訓練		睡眠		服薬		気分・気になっていること			
月	日	曜日	出席状況	受講状況 (自由記述)	就寝時刻	睡眠時間	眠った感じ・目覚めた感じ (当てはまる項目に○)	定期服薬 (服薬したらチェック)	その他 (服用したら薬種と時間を記入)	気分 (当てはまる項目に○)	気になっていること (当てはまる項目に○をして、自由記述)	
					入眠時刻			起床時刻				朝
		日	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家庭・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		月	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		火	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		水	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		木	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		金	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				
		土	出席		:		よく眠れた	朝			意欲が出ない 不安や焦り 安定している 気分が高揚している	訓練・家族・対人関係・就職活動・その他
			欠席		:		まあまあ眠れた	昼				
			遅刻		:		あまりよく眠れなかった	夜				
			早退		:		不眠	就寝前				

(A) 技能訓練について

①訓練カリキュラムについての意見等

- ・導入訓練期間中は時間的余裕があり、本人にとって良かったようである。
- ・より実務的な訓練を実施することによって、職場での課題が浮かび上がるとともに、現実認識が深まるのではないか。
- ・訓練生にとって、支援者と訓練生との関係作りも大切であるが、訓練生同士の関係作りの部分も必要である。訓練時間外での訓練生同士の関係作り（飲み会等）を認める方向で今後も考えるのか。
- ・訓練生の自主性に任せるだけではなく、訓練時間内で訓練生同士の関係作り（レクレーション等）を計画することも必要。
- ・職場実習に重点を置く方が良い。また、職場実習は、早めに実施することが効果的である。
- ・訓練生の特性やニーズを早い段階で見極め、今以上に早い段階から就職活動を実施する。

②支援実施方法についての意見等

- ・精神障害という枠での特別な訓練は行わなかった。他の障害の訓練生とコミュニケーションを取ることが大切なのが良く分かった。
- ・障害名が同じでも個々によってまったく違う。精神障害者の特性への配慮はすべきだが、精神障害者という括りではなく、あくまでも個別の支援が必要。
- ・職域開発科と一般訓練科の連携がもう少し密な方がうまくいくと思った。
- ・一方方向ではなく、職域開発科と一般訓練科との相互のコミュニケーションが必要。
- ・障害について、他の訓練生にオープンであったので、割とうまくいった。
- ・訓練中は、訓練生と少し距離を置き、休み時間はしっかりと話しを聞くことで、支援がうまくいったと思う。
- ・集中力よりは、作業耐性を養う必要がある。

③指導方法についての意見等

- ・一般訓練科の指導員と職域開発科職員（適応支援担当者）との日頃からの連携

(コミュニケーション)が大事。こまめに話し合い、情報を共有することで、一貫した方向性を持った支援を行うことができると思われる。

- ・精神障害の人は、こわばった表情が特徴的であったが、「本人の努力+職員から指導」により、随分と柔らかな顔つきになった。

(B) 適応支援、就労支援について

①男女関係についての意見等

- ・圧倒的に男性が多いが、女性が入ることで男女関係が生まれる。他の訓練生への影響は、どうなるか。
- ・今年は、たまたま問題は起こらなかったが、支援者に対して恋愛感情を抱く訓練生はいた。支援者とのかかわり方、訓練生同士の関係について検討する必要がある。

②朝の会についての意見等

- ・柔軟性を持たせるため「朝の会」の始業時間をあえて厳密に決めなかったために、各訓練科の事情で集合時間がまちまちになり、待ち時間の長い訓練生がいた。集合時間に柔軟性を持たせることは良いが、入所時ということもあるので、緊張を強いられる人もいたので、待ちやすい環境を作ったらどうだろうか。

③職場実習についての意見等

- ・職場実習（体験実習を含む）は、現実認識を深める為に有効である。早い時期に体験実習をするのも、有効ではないか。
- ・OFF-JTの訓練も必要だが、仕事を実感するためには体験的な職場実習も有効と思われる。早い時期の職場実習をできる限り検討する必要がある。

④職員との関わり方についての意見等

- ・訓練生によるが、個別面接で信頼関係を作ることで、本人への働きかけがスムーズに行えた。反面、修了後の職リハセンターから次の支援機関へ移行する時に関係が密である分、移行の困難性が高いことがある。
- ・アンケートでは、適応支援が良かった割には、仲間作りができないとあった。

⑤就職活動についての意見等

- ・去年の訓練生は、他の訓練生の就職が気になり、不安定なときもあったよう

だが、個人差を考慮し、状況に合わせて早い時期から動ける人は就労支援をする方が良い。自分のペースをつかませる事が大切である。

- ・就職先はこまめにハローワークに出向いて探す以外に方法はないのか。
- ・昨年は精神障害者が雇用率のカウントになっておらず就職相談会もあまり有効ではなかった。地道な掘り起こしも必要だが、その他の情報収集も検討すべきと思われる。

⑥グループワークについての意見等

- ・社会生活支援（グループワーク）は、有効であった。一般訓練科の指導員もできるだけ参加をして欲しい。
- ・グループワークに参加することで訓練場面とは違った個々の様子が確認できることがある。
- ・社会生活支援の内容で、意見を言わないといけないような雰囲気になるので、意見を言わなくても良い課題も用意した方がよい。
- ・グループワークでも既に色々な課題を用意している。時には、意見を言う場面で自分の考えを言えるようなトレーニングも必要。
- ・グループワークでは仲間意識ができて、心強かったと思う。

(C) 関係機関との連携

①医療についての意見等

- ・訓練当初、時間中の居眠りが見られたが睡眠導入剤の量と種類を医師に調整してもらい、居眠りはほとんどなくなった。
- ・「図2-3-5 支援の体系図の例」を見ると主治医が家族に働きかける機会がないことがわかった。今後は、薬の副作用の事や、家族へのフィードバックをしてもらえるような主治医との関係を作っていけるように訓練生に働きかける必要がある。

②関係機関との連携についての意見等

- ・訓練修了後、特に就職の決まっていない修了生に対し、支援機関とどういう役割を持って支援を行っているか、今までの効果と今後の課題を整理する必要がある。また、どこが中心になって支援するのかを考える必要もある。
- ・修了後に行き先の決まっていない修了生については職リハセンターが責任を

持って支援することとしている。地域職業センターにつながにしても就職先を職リハセンターが決めてからにしている。その後の役割分担は各支援機関と調整して決めている。

- ・ 訓練生と関係機関への訪問や家族との面談は、訓練生にとって守られているという安心感をもてたと思われる。

③家族支援についての意見等

- ・ 本人の支援はもちろん、家族への支援も欠かせないものである。就労時に、現実認識を深める時、本人への影響力の強い親の理解をしっかりとっておくべきだと思った。